

「おか山っ子60号記念誌」

中学生作文の英訳刊行

倉敷市立短大グループ

倉敷市立短大（児島子准教授（英語学）と稗田町の安達勸人学長（翻訳学）を中心とする翻訳グループが、県児童生徒文芸詩集「おか山っ子60号記念誌」（県教組、2012年発行）の中学生の作文を英訳し刊行した。小学生編に続く第2弾。グループは安達学長、同短大の松浦加寿子准教授（英語学）と元職員員の黒田由紀子さん、中学校の英語教諭ら8人。記念誌は1990～2009年度の各年度発行分の選集で、「中学校・作文編」は、部活動など日々の生活▽介護や家業を通じた家族との関係▽命や平和の尊さなどを扱った30編と解説、後書きを収録している。

23年刊行の「小学校・作文編」と並行して12年から翻訳を進め、米国のネーティブスピーカーにチェックしてもらうなど推敲を重ねた。安達学長は「多感な思春期の子どもたちの感情や葛藤を分かりやすく翻訳するのに腐心した。等身大の若者の『声』から当時の情景や時代背景をうかがうことができ、興味深い」と話している。



英訳を手にする安達学長（中央）、黒田さん（左）と原作の記念誌を持つ松浦准教授

縦23・4センチ、横15・6センチで177ページ。米国の出版社が手がけ1冊2958円。購入などの問い合わせは同グループ（okayamakko60@gmail.com）。

グループは小学生編も含め、収録した作文の執筆者に本を寄贈したいと考えており「心当たりのある人は連絡してほしい」と呼びかけている。

（池葉須則夫）